

令和4年4月1日

令和4年度 村上第一中学校 学校経営の基本方針
～「ともに学び、ともに高まる学校」を目指して～

校長

1 目指す学校の姿

(1) あったかい学校 (寄り添う)

○平等という名目の一斉一律の指導ではなく、個に応じた支援を辛抱強く行う。

- ・ どんなにいやな話でも生徒の話をも否定せず、まずは、聴いて受け止める。
- ・ 怒りは制御し、罰則やマイナスメッセージでなく、ポジティブな働きかけをする。
- ・ 生徒の人権を尊重する。一人の対等な人間として付き合う。
- ・ 行動の見える姿だけでなく、その背景を踏まえた指導をする。
- ・ 諭すこと、叱ることも大切。だが、冷たい対応や大声を出しての指導はしない。

(2) 力のつく学校 (鍛える)

○環境を整えてやれば、生徒は伸びる力を持っている。しっかり教えて、考えさせ、任せて(待つ)、価値付けることにより、生徒の能力を伸ばす。

- ・ 子供の学力に責任をもち、勉強が分かるようあらゆる手立てを尽くす。
- ・ 子供が自分自身の成長を実感できる授業をつくる。
- ・ 勉強が好き、もっとやりたいと思う、知的好奇心を高める授業をつくる。
- ・ 中学校は大人にするところ。過保護にしない。生徒から考えることを奪わない。
- ・ 失敗させない丁寧な指導でなく、失敗から学び、自立を援助する指導をする。

(3) やる気の出る学校 (やりがいにこだわる)

○形だけになっていないか、子供のためになっていないか、手段が目的化していないか。

「何のために」を常に問いかけ、子供の心に火をともし働きかけをする。

- ・ 形だけを整える指導はしない。
- ・ 生徒のアイデア、発想を大切にす。
- ・ うまくいかない原因を探るよりも、どうすれば解決に近づけるかに注力する。

2 目指す教職員の姿

- (1) 誰に対しても平等であること。人権を尊重し、お互い様の気持ちで、敬意を払う。
- (2) さわやかなあいさつ、笑顔、丁寧な言葉使いを心がける。
- (3) もっといい方法はないかを常に考え、小さいことでも改善に向けた提案をする。
- (4) 決めたことはみんなでやる。変えたいときは、提案する。

3 生徒・保護者対応の原則

- (1) スピードは誠意である。誠意はスピードである。
- (2) フェイス トウ フェイス
- (3) 複数(チーム)対応
- (4) 指導は、否定でなく望ましい行動を端的に伝える。
- (5) ヒット&アウェイ&バトンタッチ
- (6) いいことも悪いことも、「あれっ」と感じたら、すぐ報告、連絡、相談

4 働き方改革について

当たり前を見つめ直し、平日の超勤時間、45時間以内を目指す。

- ・部活動の顧問は、全員が主顧問である。指導業務の負担の均衡を図る。
- ・OPPシートへのコメントは書かない。良かったものを評価するだけ。(下線、紹介)
- ・定期テストを除き、自己採点を基本とする。(自己採点できる力)

5 本年度の課題

(1) やりがいのある分かる授業を実施し、新規不登校を発生させない。

- ・授業改善のための研修
- ・TTの実施(1・3年数学)

(2) PDCAを意識させ、望ましい生活習慣と家庭学習習慣を定着させる。

- ・手帳の活用
- ・睡眠学習の実施
- ・健康調査の実施と振り返り

(3) ICTを適切に活用し、教員の労力を削減し、生徒の学習意欲を高める。

- ・AIドリルの活用
- ・メクビットの活用
- ・学習者用デジタル教科書(国・英)

(4) 全員が学級担任。学年担任制を実施し、成果と課題を明らかにする。

(5) 令和5年度実施に向け、制服の見直しを進める。

(6) 観点別評価のための評価計画を実施し、成果と課題を明らかにする。

(7) 人権教育、同和教育の市の指定研究を着実に進める。